



【編集】

富山国際大学
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies

中国留学を終えて

私が初めて中国に来た時はなんとかかなるだろうと思っていました。なぜなら、漢字が似ているし、同じ漢字もあるから雰囲気で見分かるとか思っていたからです。しかし、実際に授業に参加すると全く分かりませんでした。先生の「分かりましたか？」でさえ聞き取ることが出来なくて、授業は毎日付いていくだけでも必死でした。日常生活の簡単な単語も聞き取ることが出来ませんでした。「〇〇元です。」ですら速くて何を言っているのか分かりませんでした。聞き返そうと思っても聞き返し方が分からないし、私の発音が悪くて伝わらないことが日常茶飯事でした。何をすることも不自由で、一人で行動すら出来ませんでした。英語も分からなかったもので、初めはずっとジェスチャーで会話をしていました。

そのうちに、友達が出来てジェスチャーで伝える表現を中国語に訳してくれました。このような日々が新鮮で、刺激的で、毎日が充実していました。しかし、ジェスチャーだけでは誤解されたり、伝わらなかったり、もどかしい日々もありました。そのような事があったからこそ、私が中国語を話せるきっかけになったと思います。伝えたいという気持ちが大切なんだと実感しました。伝えたいという気持ちが大きければ大きいほど、その時に使った単語はよく覚えているものです。

また、カルチャーショックは中国人だけでなく、他の国の人と接する時にも多くあり、とてもおもしろかったです。それぞれの国はそれぞれ違った文化があったので、自分自身の視野が広がった事に繋がったと思います。このようなカルチャーショックを受ける事によって、自分の国の文化を改めて知ることが出来ました。

留学を終えて改めて実感したのは、日本はすごく恵まれた国だなと思いました。日本にいるときはこれが当たり前すぎて、日本に住んでいながら日本の事が分からなくなっていました。更に、中国に留学したことにより、中国の文化や問題点、良い点など、日本にいる時よりも知り、実感することが出来ました。他国の留学生ともかかわり、中国以外の文化にも興味を持つ事ができました。



(左:3年 堀江輝一、中:3年 柳澤佑今、右:3年 竹内汰成)

留学して得られたものはとてもかけがえのないものです。この留学生活で得たものを、今後の学生生活の中で活かしていきたいと思っています。

(文・3年 柳澤 佑今、写真 国際交流センター)